

県 政 だ よ り

# あきた 新時代

6 2004  
月号

平成16年6月1日発行 第105号

[全戸配布広報紙]

編集・発行 / 秋田県情報公開課  
〒010-8570  
秋田市山王四丁目1番1号  
☎018(860)1073  
FAX 018(860)1072  
sinjidai@mail2.pref.akita.jp

## 「白神山地」の恵を受けて 「地域再生」や「特区」の制度を 活用してみましょう



「青空の下で」  
この4月から幼稚園と保育園の合同保育をスタートさせた千畑町の「なかよし園」。  
五月晴れのこの日。3歳以上の園児たちが一緒になって園庭で運動です。滑り台の前で元気よく万歳！まぶしい太陽に負けないくらいの笑顔と歓声が響きわたっていました。

# 「白神山地」の恵みを受けて

## 世界自然遺産

秋田県から青森県にまたがる  
 広大な白神山地。

険しい峰や沢を埋め尽くすようにして広がる天然のブナ林。そこに生息する多様な動植物が織りなす生態系。それらが世界的にも貴重であることから、平成5年に世界自然遺産に登録されました(白神山地の総面積は約13万ヘクタール、そのうち登録面積は約1万7千ヘクタール)

白神山地は、ブナのほかにダケカンバ、ミズナラなどの広葉樹も自生し、高山植物を含む500種以上の植物が群生しています。

また、天然記念物のクマゲラやイヌワシ、ツキノワグマ、さらには、2,000種にも及ぶといわれる昆虫類などが、大自然の循環の中で豊かに息づいています。

遠く縄文の昔から、人々はさまざまな恩恵をこの山から受けてきました。

そして、貴重な自然を守るとともに、豊かな資源を地域づくりに生かすための新たな取り組みが始まっています。

## 八森町

### 森の復元で海の再生を

白神山地のすそ野から日本海を臨む八森町。

ここで、白神山地の保全と森の復元に向けた活動を行っているのが「白神ネイチャー協会」です。

ネイチャー協会が、全国から参加者を募って実施している「ブナのボランティア植樹」は、今年で5回目。100人の定員は希望者ですぐにいっぱいになるといいます。

会長の工藤英美さんは「苗木の準備や搬送など、事前の準備は大変ですが、希望者も多く、さらに活動の輪を広げていきたいですね」と話してくれました。

この協会のユニークな点は、白神山地と日本海にはさまれた地形を生かして、豊かな森を復元することで海の再生を図ろうとしていること。



豊かな生態系が息づくブナ林

白神山地から流れ出た真瀬川や泊川は、ミネラルなどの栄養分に富み、海に注いで魚の産卵に適した藻場を形成し、その繁殖を促します。つまり、ブナ林の育成でハタハタなど、海の資源を増やそうという趣旨です。

ネイチャー協会は、こうした効果を検証するため、川や海辺の生態調査、さらには海中のビデオ記録なども行っています。

### 数百年スパンの取り組みを

「私たちの森を復元する取り組みが、200年後、300年後の豊かな海につながることを願っています。地元の小・中学生が、ブナの実の収穫や育苗作業に参加してくれますが、こうした体験を通じて大自然のゆったりした循環を実感し、環境の大切さを理解してくれたらうれしいですね」と、工藤さんは話してくれました。

「白神は、調べれば調べるほど奥が深く、魅力の尽きない山です。ネイチャー協会をNPO法人に登録して活動の幅を広げたいと考えています。白神の循環を見習い、時間をかけてじっくり取り組んでいきたいですね」と、あくまでも自然体を強調する工藤さんでした。

今年植栽予定のブナの苗と工藤英美さん



ブナの植栽に汗を流すボランティアの皆さん

### 白神の魅力をメロディーにのせて

八森町は、白神山地の魅力を広く全国に広める活動を進めています。

平成13年から始まった「悠久の森」白神「フェスティバル」もその一つ。

そのきっかけは、八森町出身で元オフコースの松尾一彦さんが、白神山地をイメージした曲をつくって八森町に寄贈したこと。町では、さっそく曲の歌詞を全国から公募し、作品の発表の場としてフェスティバルを企画しました。それが好評だったことから、その後も毎年実施しています。

昨年の歌詞のコンテストには全国から446点の応募があり、フェスティバルには約6,000人が参加するなど、大変な盛況でした。

今年も、昨年を上回る500点以上の応募があったといわれています。フェスティバルは8月29日(日)に予定していますが、白神の町「八森」をアピールする機会にしようと、スタッフ一同、大いに張り切っています。



八森側の登山口となる「八森ぶなっコランド」



トワ・エ・モワのお二人も参加した昨年のフェスティバル

お問い合わせ 八森町企画政策課 TEL 0185(77)2111 FAX 0185(77)3569  
 ホームページ <http://www.shirakami.or.jp/hatimori/>

# 白神の魅力を満喫するために

白神山地が世界自然遺産に登録され、その知名度が上がるにつれて入山者も年々増えています。藤里町からの登山者は、平成5年度の3,400人に対して、平成14年度は7,221人と、

この10年間で2倍以上になっています。

いまや世界ブランドになった白神の魅力を多くの方に満喫していただくとともに、貴重な生態系を保護するための取り組みが進められています。



昨年の「白神山地」山開き（藤里町）

## 藤里町事業課 櫻田博さんのお話

県外などから藤里町を訪れる観光客が毎年増えているので、その受け皿を整えることが課題です。

入山者の増加で生態系への影響が心配されることから、登山道や自然観察路、公衆トイレを整備したほか、町独自に白神山地のガイドを養成し、観光客の便宜を図っています。

これからは団体客だけでなく、小グループや個人など、さまざまなニーズに応えられるようにしたいと思います。

特に、要望の強いグリーンツーリズム、エコツーリズムへの取り組みを強化したいと考えています。

町外の人を感じる白神山地の魅力や価値を、地元でも十分認識していない面があるので、一緒に勉強しながら、地域活力の向上に結びつけていきたいですね。

お問い合わせ 藤里町事業課 TEL0185(79)2111  
ホームページ <http://www.shirakami.or.jp/fujisato/>

## 「環境省白神山地世界遺産センター」佐藤講平さんのお話

このセンターでは、白神山地の保護管理に向けた活動のほか、白神の魅力を普及するために自然観察会などを行っています（年間8回）

入山者が増えて、多くの方が白神山地を体験することは歓迎すべきことです。

その一方で、貴重な生態系を守るうえで心配される事態も生まれています。とくに、登山道周辺の腐葉土が踏み固められ、以前のようにうっそうとした感じがなくなったほか、ふもとの雑草類が奥地の歩道周辺でも見かけるようになりました。

入山される方には、最低限のルールはぜひ守っていただき、ペット連れの入山などは厳に慎んでもらいたいですね。

気の遠くなるような時間をかけて形成された貴重な生態系が、ちょっとした不心得によって壊されてしまうことを、十分認識してほしいと思います。

## 白神山地への入山マナー

- 入山前にトイレを済ます
- 自生する植物には触れない
- ゴミは持ち帰る
- 歩道から外れて歩き回らない
- 十分な装備で入山する



環境省白神山地世界遺産センター（藤里館）



センター内の展示物

お問い合わせ 環境省白神山地世界遺産センター  
TEL0185(79)3001

## 「白神ブランド」を全国に

恵まれた自然条件を生かしながら地域の特産品を、白神ブランドの名前で全国に提供しているのが(株)藤里開発公社です。社長の石田誠一さんから話を伺いました。

この公社を立ち上げたのは平成3年12月です。

藤里町が整備した特産品施設などの管理から始めて、平成6年には「ホテルゆとりあ藤里」を整備し、昨年からはブナ林から湧き出た清水を利用して「白神山水」の生産を始めました。この白神山水に、公社が生産した舞茸などの特産品やキリタンポセットなどをそろえて、首都圏などに売り込んでいます。

最初は、観光客などに地元の新鮮な産品を提供する地産地消を基本にしていましたが、それだけでは限界があります。そこで、「白神」のネームバリューを利用しながら、全国の市場に進出しました。お陰様で、東京や大阪の大手スーパー、百貨店などへの販路確保も順調に進んでいます。

セールスに当たっては、白神の名前に大きな効果がありましたが、あわせてこれまでの人的なネットワークが威力を発揮しました。

ただ、市場のニーズに応えるためには公社の産品だけでは対応できないので、県内、さらには白神つながりで青森県とも提携しながら、品ぞろえの充実を図ってきたいですね。

白神ブランドのもと、質のよい地場産品を全国の消費者に提供し、地元の産業おこしにつなげるという公社の取り組みは、これからの地場産業の振興に向けたひとつのモデルになりそうです。

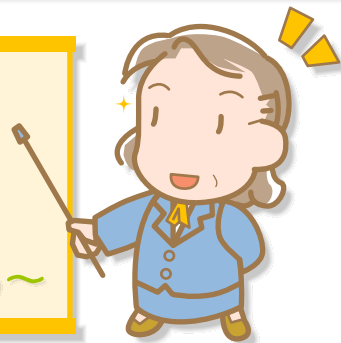


石田誠一さん

お問い合わせ (株)藤里開発公社 TEL 0185(79)1070  
ホームページ <http://www.shirakami.or.jp/yutoria/>

# 自分たちのまちを 自分たちで生き生きと

～「地域再生」や「特区」の制度を活用してみましょう～



皆さんの周りには、廃校になった校舎やあまり利用されなくなった施設はありませんか？

地域の眠ったままの財産を使って、自分たちで自分たちのまちを良くしたいのに、「法律や制度などが壁になってうまくいかなかった」ということもあるのではないのでしょうか。

法律は私たちが暮らしていく上で最低限必要なルールですが、それが私たちの暮らしを少しだけ不自由にしているとしたらどうでしょう。

柔軟なやり方で、そして自分たちのアイデアで生き生きとしたまちづくりができるとしたらどんなに素敵なことでしょう。

今回は、地域のユニークなアイデアや知恵を生かし、地域をもっと元気にする「地域再生」と「構造改革特区」を紹介します。



## 再生1 「地域再生」の主役は皆さんです

「地域再生」は、皆さんのアイデアで、皆さんのまちを生き生きさせるための制度です。

「そうは言っても、自分ひとりの声で変わるなんてあり得ない!!」と思うかもしれません。

地域再生制度は、まちを生き生きさせるアイデアを進めるうえで、「使い勝手が悪い」とか「不経済だ」など、皆さんが日ごろ思っていることや感じていることを国に提案し、国は実現可能なアイデアを「地域再生推進のためのプログラム」に取り込みます。

提案は、市町村や県からのものもありますが、民間からもたくさんの提案が寄せられています。

プログラムの中から自分たちの地域のためにもっとも大切なことを「地域再生計画」として注文すれば、おいしい料理になって皆さんのもとに返ってくるのです。

何が地域にとって一番おいしい料理なのかを考えることができるのは、その地域を最も知っている皆さんです。

皆さんがまちづくりの主役になるのです。



## 再生2 「地域再生計画」のながれが出来るまで

「地域再生計画」がどのように出来るのか、順を追って説明しましょう。

皆さんが地域を生き生きさせるアイデアを考えます。アイデア実現のためには何が「壁」になっているのかはつきりさせます。

なんのためにこのアイデアを提案したか国と話し合います。

(地域再生構想の提案)

提案が認められると、市町村や県がその提案に沿った「地域再生計画」を作成します。

国に地域再生計画を提出します。



## 再生3 「地域再生計画」で地域が息づく

「地域再生計画」が認定されるとどんなことができるのでしょうか。

地域を生き生きさせるアイデアを進める一歩となる事例を挙げてみましょう。

公立学校の廃校校舎や空き教室を地域ボランティアの活動拠点に転用する。

補助金で作った加工施設を販売施設に転用する。

幼稚園と保育園を一体化したあと、余った施設を転用する。

このように、皆さんの暮らしを少し不自由にしていた法律や権限という壁を取り払うことで、今までできなかったことができるようになります。

「地域再生計画」は、地域を生き生きさせるための第一歩です。ここから皆さんによる個性豊かな生き生きとした地域づくりがはじまるのです。



## 再生4 「地域再生」で地域が変わる

千畑町の「なかよし園」の取り組みのように、「特区」や「地域再生計画」で市町村も県も変わろうとしています。

国はいま「全国一律横並び」ではなく、それぞれの地域がもっている可能性や埋もれた資源、新たな発想でそれぞれの地域を良くするべきだと考えています。

皆さんの豊かで柔軟なアイデアで、眠ったままの地域の可能性を発掘してみませんか。皆さんの力で自分たちの地域を生き生きとした地域に変えることができるのです。

県内では既に「構造改革特区」として3件が認定されています。その第1号が千畑町の「幼保一体的運営特区」。幼稚園と保育園の合同保育が始まった「千畑町なかよし園」の取り組みを泉谷隆雄園長に聞いてみました。

### 「合同保育」をしたい

子どもが成長していく上でたくさんの友達と交流することはとても重要なことです。

幼稚園児と保育園児は、法律で、別々の施設で保育しなければならず、交流の幅が狭くなっています。



泉谷園長

千畑町では、平成8年に幼稚園が、翌年に保育園が同じ敷地内に建てられましたが、保護者からは「一緒に保育できないのはおかしい」という声上がるようになりました。

町は、試験的に年長組園児の交流を始めましたが、平成14年9月の子育て支援センターの完成を契機に、「合同保育」に向けた取り組みが大きく動き出しました。

### 合同保育ができる「特区」

県から幼稚園と保育園を一体的に運営する「合同保育特区」のアドバイスを受ける機会がありました。

町は「合同保育特区」を実現させるため、次のように考えました。

幼稚園と保育園を一体的に運営すれば子ども同士の交流が格段に増え、成長期の子どもたちに良い刺激を与える。

両方の園を利用していない子どもたちに、子育て支援センターを開放し、園児との交流などで良好な刺激を与える。また、親の相談にも応じる。

この施設を幼児の保育と教育・子育て支援に関する拠点とする。

利用する保護者に子育てと就労の両方の喜びを与える。



幼稚園児の親と保育園児の親とでは就労環境などが違っているため、施設への要望も幅広くなってきている幼稚園児と保育園児を区別しないで同じ教室の中で、円滑に就学前教育がおこなえるよう新しい形のカリキュラムを早急に作成する必要がある

などの課題もでてきています。

しかし、合同保育をやることはありません。少ない園児を分けて保育することは好ましくないと思います。少し時間がかかっても、この地域で考えて課題の解決策を出していきたいと考えています。



### 幼保一体的運営推進のために

県は、就学前の子どもに対する教育と保育を充実させるため、4月1日に幼保推進課を設置し、幼稚園と保育園の行政窓口を一本化しました。

幼保推進課の進藤光子課長は「千畑町の取り組みは、就学前の子どもの教育と保育の一体的運営に向けた先駆的事例です。県も、カリキュラムの開発や保護者ニーズの多様化への対応などの課題解決と一緒に考えていきたいと思っています。幼保それぞれのノウハウを活用しながら、地域の実情にあった市町村の取り組みを支援していきます。」と話してくれました。



### 「特区」で何が変わったのか

平成15年11月28日「千畑町幼保一体的運営特区」が認定されました。

平成16年4月から正式に合同保育が始まり、子どもたちの交流は期待どおり増えています。

職員は、教員と保育士の両方の資格を持っており、幼稚園児と保育園児の両方を1人で担当します。財政上の優遇措置はありませんが、2つの施設が1つになったことで、運営経費を減らすことができました。一方で

幼稚園児と保育園児との一番の違いは保育時間なので、そのギャップをきめ細やかな配慮で埋めていく必要がある

### 地域の活性化に向けた皆さんの提案を募集します。

〔日程〕 地域再生 第2次提案募集 .....6月中 2次計画申請 .....11月頃  
 特区 提案募集.....6月、11月 申請 .....10月、1月

〔お問い合わせ〕 県総合政策課 TEL:018(860)1215 FAX:018(860)3873 Eメール: seisaku@pref.akita.lg.jp  
 または、最寄りの県地域振興局地域企画課及び各市町村

# 食品の安全・安心のために

食品は、私たちが健康で充実した生活を送るうえで欠くことのできないものです。

最近、国内外で、BSE(牛海綿状脳症)や鳥インフルエンザ、偽装表示問題などが相次いで発生し、これまで以上に食品の安全・安心の確保に向けた取り組みが求められています。

県は、全国に先駆けて「秋田県食品の安全・安心に関する条例」を4月から施行し、皆さんが安全な食品を安心して食べられるよう、さまざまな取り組みを進めています。

県は、皆さんの意見を反映しながら、さまざまな施策を進めます。

食品安全推進委員会や地域懇談会などを開催し、生産者や食品関連事業者、消費者の皆さんとの意見交換やお互いの理解を深める機会をつくります。

「食品安全総合相談窓口」を設置するほか、さまざまなイベントやセミナー、ホームページなどを通じて情報提供や意見募集を行うなど、食品への不安感や不信感の解消に努め、県内産食品への信頼を高めます。

食品の安全・安心の確保には、皆さんの取り組みも欠かせません。

日ごろから食品の安全・安心に関心を持ち、知識を修得するなど、皆さん一人ひとりの取り組みも大切です。

生産者や食品関連事業者の皆さんには、食品の適正表示や徹底した品質管理のほか、消費者に正確かつ適切な情報を提供することが求められています。

## つなぐ安全・とどける安心



6月は「**食品安全安心月間**」です  
 食品の安全・安心への一層の関心と理解を深めてもらうため、さまざまなイベントやセミナーを開催します。

- 食育フォーラム (食育:食に関する教育) 6月18日(金) 午後1時 県庁第2庁舎  
内容 食育に関する基調講演、意見交換など
- あきた産デーフェア 6月19日(土) 午前9時30分～午後3時 ポポロート(秋田駅)  
内容 地元農産物の展示・実演販売など
- 食品安全セミナー 6月25日(金) 午後1時30分 県庁第2庁舎  
内容 事例研究(卵・惣菜の衛生管理、暮らしに役立つ食品表示)

お問い合わせ 秋田県食品安全推進会議事務局(県生活衛生課)  
 TEL018(860)1591 FAX018(860)8856 ホームページ <http://www.pref.akita.jp/f-safety/>

# 皆さんのアイデアを県政に!

県は、「民間にできることは民間に」「市町村にできることは市町村に」という考えを基本に、国や県の枠組みにとらわれない、さまざまな規制や手続きの緩和を進めようとして取り組んでいます。

そこで、皆さんの身の回りで支障となっていることや、日ごろお考えになっているアイデアをお寄せください。例えば...

この規制を無くしたらこういうメリットがある

この制度はこういう風に変えたらもっと利用しやすい

市町村の方が実態を把握しているので、この事務は市町村でやった方がよい

このほかにも、県政に関することであればなんでも結構です。県民の皆さんから県の施策につながるようなアイデアや提言を募集します。

昨年は、提言・要望のほか、苦情などを含めて64件のアイデアが寄せられました。具体的には、

国際教養大学の有効活用を(言語教育センターの併設など)

秋田中央道路の進捗状況の公開を

男鹿水族館を中核としたマリリゾートを など

皆さんからいただいたアイデアは、県の施策を進める際に大いに参考にさせていただきます。

下の手紙を切り取って、日ごろお考えになっていることをお寄せください。

(切り取り線)

元気な秋田をつくるために



料金受取人払

秋田中央局  
承認

205

差出有効期限  
平成17年3月  
31日まで

(切手不要)

0 1 0 8 7 9 0

0 1 2

県庁  
県民アイデア  
募集担当  
行

(情報公開課内)

(受取人)  
秋田市山王四丁目一番一号

## 【応募方法】

この様式を外側の線に沿って切り取り、周囲をのりづけして郵送してください。切手は不要です。

ファクス、Eメールでも受け付けますので、その場合は、あなたのアイデアのほか、住所、氏名、年齢、性別、職業、電話番号を記入してください。

## 【応募・問い合わせ先】

県庁「県民アイデア」募集担当(情報公開課内)

TEL018(860)1071

FAX018(860)1072

Eメールアドレス koho@mail2.pref.akita.jp

(切り取り線)

# おたより



情報公開課にお寄せいただいた「おたより」の中から、心なごむ一言や県政に対するご意見、広報紙の感想などをご紹介します。

表紙の国際教養大学のアル・レーナー教授と学生さんたちの笑顔がとても素敵でした。

(74歳・女性・秋田市)

鏡を見る時間を少し長くして健康チェックをするなんて、何となく楽しいですね。身だしなみにもなるし。

(67歳・男性・秋田市)

毎号の春夏秋冬こぼれ話を楽しみにしています。刺巻湿原のミズバショウ、一度観光に行きたいと思いますが、管理する方々のご苦勞を知りました。頑張ってください。

(63歳・女性・秋田市)

16年度の秋田県予算のページ、じっくり読ませていただきました。ポイント別にわかりやすい言葉で書かれており、理解しやすかったです。

(35歳・女性・大曲市)

ゴミゼロ秋田を自覚して、なるべくリサイクルして出そうと思いました。美しい街の秋田で暮らせるよう、県民一人ひとりが心掛けることが大切だと思います。

(36歳・女性・横手市)

県立博物館へは子どもたちが小さい頃、よく連れていきました。新装オープンとのこと、楽しみにしています。

(66歳・男性・本荘市)

(切り取り線)

(タイトル)

(内容)

のりしろ

谷折り

谷折り

あなたの 〒

おところ

お名前

男・女

歳

ご職業

☎

ファクスで応募する場合は、このまま送ってください。

FAX018(860)1072

(切り取り線)

のりしろ





# 「認め合おう 輝く個性」 みんなでつくる 元気な秋田」

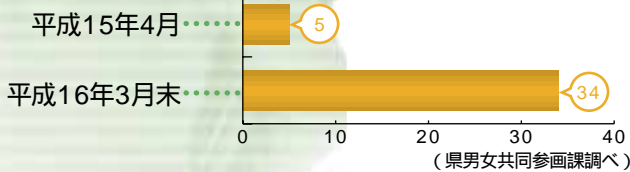
～6月は男女共同参画推進月間です～

平成14年4月に制定された秋田県男女共同参画推進条例(愛称「あきたハーモニー条例」)、条例の制定から3年目を迎える今年度は、女性の積極的な社会参画を支援する事業、男性のライフスタイルを考えるセミナーなど、男女がお互いを尊重しつつ、家庭や社会で生き生きと活動できる環境づくりのため、さまざまな施策を実施していきます。

地域・家庭・職場という身近な環境の中で、それぞれが一人の人間としてお互いの個性を認め合い、男女の性別に関わらずみんなで協力しながら活力ある秋田県を目指していきましょう。

## 男女共同参画 計画策定 市町村数

地域の男女共同参画社会の実現に向けて動き出しています!



男女共同参画計画は、女性と男性が個性と能力を發揮しながら、ともに住み良い社会をつかっていくための基本的な指針となるものです。平成15年4月の策定市町村数は5市町(策定率7.2%)でしたが、1年間で34市町村(策定率49.3%)に増えました。

地域での推進的役割を担う「あきたF・F(フィフティ・フィフティ)推進員」が、16年末には全市町村に配置される予定です。

## 知事と 語ろう!

### ハーモニー・フォーラムを開催します。

今年度も地域での男女共同参画の推進を図るため、「知事と語ろう!ハーモニー・フォーラム」を県内各地で開催します。

- 5月31日(月)...平鹿町(実施済)
- 6月3日(木)...西仙北町、雄勝町
- 7月27日(火)...天王町、象潟町
- 7月29日(木)...八森町、鷹巣町

## 参加募集のお知らせ

### 女性起業チャレンジセミナー

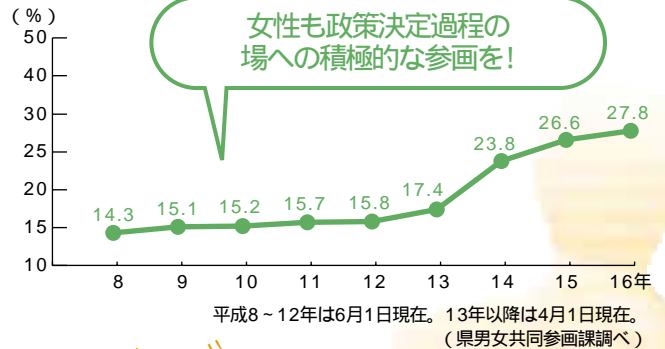
日程 7月10日(土)～11日(日)  
場所 中央男女共同参画センター(秋田市アトリオン7階)  
募集 女性20名  
内容 事業計画・資金計画の立て方、演習など  
セミナー受講者の中から、希望者は選考によりコンサルティングを受けることができます。  
申し込み先 中央男女共同参画センター TEL018(836)7853

### 男性ライフスタイルセミナー「自然と遊ぼう!お父さんとっしょ」

日程 7月17日(土)～18日(日)(1泊2日)  
場所 大館少年自然の家  
募集 父親と子ども100名  
内容 自然体験プログラム、親子レクリエーション  
講演(父親対象) 創作活動(子ども対象)  
参加は無料です。  
申し込み先 県男女共同参画課

## 県の 審議会等 における女性の 参画状況

政策・方針決定に意見を反映させる場として、審議会などの委員に女性の参画が増えています。県は、平成22年度までに女性の参画率を50%にする目標を立て、委員公募制を採用するなど女性の参画の促進を図っています。



Challenge!!

## 女性 チャレンジ 支援事業

男女が性別に関わらず、共に個性と能力を十分に發揮できる社会の実現のため、これまで女性の参画が少なかった分野でのチャレンジを支援します。

- 起業チャレンジセミナー 女性の起業に向けた支援
- 政策チャレンジセミナー 女性の政策・方針決定過程への参画支援
- 若者チャレンジセミナー 学生の将来の職業生活設計に向けた意識啓発の支援

お問い合わせ 県男女共同参画課

TEL018(860)1558 FAX018(860)3895

ホームページ <http://www.pref.akita.jp/josei/danjo.htm>

# 地域とともに

県内8地域に設置されている地域振興局。従来の地方部をリニューアルして昨年4月にスタートしましたが、それぞれの地域の特徴を生かして、行政の枠を越えた取り組みが広がっています。  
今回は、その中から山本と仙北の取り組みを紹介します。

自然と人が共生する地域づくり

山本地域のキーワードは「自然」と「環境」。世界遺産の「白神山地」や広大な松林「風の松原」などの保全や活用をテーマに、自然と人間、環境と地域の共存に向けて、創意あふれる取り組みが始まっています。山本地域振興局の熊谷仁志さんからお話を伺いました。

## 「能代山本環境交流会議」

この会議は、能代山本地域で環境の保全や豊かな自然と親しめる環境の整備などに取り組んでいる15団体により、今年3月に設立されました。

設立総会では、今まで個別に取り組んでいた活動を地域が一体となって進めることで、より効果的・効率的な地域づくりを進めていくことを確認しました。

## 「しらかみeネットワーク」



「eネット」の設立総会・セミナー

白神山地周辺地域で活動している団体などが、分野の違いを越えて連携しようということでスタートしたのが「しらかみeネットワーク」。

この“e”には、ecology（生態系）、environment（環境）、education（教育）の意味が込められており、振興局の働きかけにより、管内の自治体、環境や観光、農業などの分野から多くの団体が参加しています。

昨年9月に「eネット」の設立総会とセミナーが開かれ、白神山地に限らず地域のさまざまな魅力をしっかり認識し、お互いに連携しながら地域づくりを進めていくことにしました。

「eネット」で力を入れているのが、白神の魅力を全国に情報発信すること。

振興局が中心になって、今年4月に独自のホームページ「秋田/しらかみeネット」を立ち上げました。白神山地の概要から体験ツアーの情報、宿泊施



山本地域振興局  
熊谷仁志さん

設の紹介まで“まるごと白神”ともいうべき充実したサイトで、当地にお出かけの際は必見です。

併せて、白神山地の写真が満載の案内ガイドブック「あきた白神山地」を作成し、訪れる方への情報提供に努めています。

[秋田/しらかみeネット] <http://www.pref.akita.jp/ak-shira>

## 「この松をみんなの力で未来まで」

能代市の海岸沿いに広がる「風の松原」延長14キロメートルで、面積は約760ヘクタール、700万本の松林は日本では最大規模です。

市民を強風や飛砂の被害から守り、レクリエーションの場として市民に親しまれているこの松林が、いま「松くい虫」の被害でピンチに立たされています。

貴重な松林を次世代に残していくために、振興局は、薬剤散布や被害木の伐倒・駆除などの対策を講じているほか、保全活動に参加する地域の団体などを積極的に応援しています。

「風の松原を守る市民ボランティア大会」もそのひとつ。昨年の大会には約1,400人のボランティアの皆さんが参加し、松の枯れ枝や空き缶などの収集に汗を流しました（今年は6月13日に実施）。

県観光連盟が昨年行った「行ってみたい県内観光地」に関するアンケートで、トップになった「白神山地」。

そして住民の生活に不可欠な「風の松原」。豊かな自然と人や産業との共生を目指す山本地域振興局の取り組みに大いに期待したいものです。



市民の憩いの場「風の松原」



◀ 昨年の  
市民ボランティア大会の様子

お問い合わせ

県山本地域振興局地域企画課 TEL 0185(52)6285 FAX 0185(52)6832

ホームページ <http://www.pref.akita.jp/yama-chi/index.htm>

# がんばる地域振興局

食を通じた地域づくりを実践しています！

仙北地域振興局

秋田県はがんや脳卒中などの生活習慣病で亡くなる方の割合が全国平均より高く、中でも高いのが仙北地域です。

この生活習慣病は、普段の食生活との関連が深いと言われています。

仙北地域振興局は、食生活の改善を地域全体の課題と考え、保健・農業・観光の各分野の団体や地域住民が“食”というキーワードのもとに互いに連携し、地域が一体となった健康づくりに取り組んでいます。

仙北地域振興局の菅野育子さんから話を伺いました。

## <野菜をたくさん食べて生活習慣病を予防>

仙北地域は、他の地域に比べて塩分を取り過ぎているほか、カルシウムや鉄分の摂取が不足している傾向にあります。また、ほうれん草やモロヘイヤなど栄養に富んだ野菜の産地にもかかわらず、緑黄色野菜の摂取量も極端に少なくなっています。

そこで、地域で採れる旬のおいしい野菜を使ったメニューを多くの人に知ってもらい、野菜をたくさん食べることで生活習慣病の予防につなげようと考えました。

## <地産地消と健康づくりのネットワーク>

親子会や農業生産者、飲食店経営者、老人クラブなどさまざまな方の話を聞いていくうちに、人の健康づくりだけでなく、地域の健康づくりも一緒に進めていこうというアイデアが生まれました。

健康メニューづくりでは、“食事イコール栄養士”ではなく、食を核として農業、観光が一体となってメニューづくりをしようと、栄養士や保健師、調理師のほかに県観光連盟、農協、情報誌発行者、旅館業者、飲食店経営者など幅広い方に参加してもらい、ネットワーク会議をつくりました。

この会議は、健康メニューのヒントや地域経済が元気になるための野菜活用法、さまざまな団体との連携やPRの方法まで熱心に話し合われています。



仙北地域振興局  
菅野育子さん



公開試食会▶

## <人と地域を健康にする取り組み>

ネットワーク会議で出されたアイデアから、家庭向けと飲食店・旅館向けの健康メニューを作りました。

メニューづくりは、地域の皆さんと意見交換しながら、何度も試食をし、最後に公開試食会を開きました。

家庭向けメニューは60種類。調理方法のほかに、旬野菜の説明や健康ワンポイントアドバイス、クイズなどを載せたリーフレットを作成中です。

飲食店・旅館向けのメニューは“仙北まるごと健康メニュー”。昼食の弁当と夕食の2種類で、県観光連盟では多くの人にこのメニューを味わってもらおうと、「秋田花まるっモニターツアー」を7月に企画しています。

生活習慣病を予防するメニューを呼び水に、農業や観光を通して地域全体を健康にしていこうという試み。

“食”をキーワードに関係する皆さんと行政が一体となって進める地域づくりはいま本格的に動き出しています。



見た目も豪華でおいしい夕食

仙北まるごとヘルシー弁当▶

どちらも品数が豊富なうえに、カロリー・塩分はかなり控えめです。



お問い合わせ

県仙北地域振興局健康・予防課 TEL 0187(63)3403 FAX 0187(63)5288

ホームページ <http://www.pref.akita.jp/omagari/index.html>

**北** 東北3県は、世界遺産の白  
神山地をはじめ、十和田湖  
や八幡平など豊かな自然に恵まれ  
ています。しかし、この地域にも、  
地球温暖化や酸性雨、水質汚濁など  
の環境問題が着実に押し寄せています。

世界的にも貴重で豊かなこの自然を次  
の世代に引き継ぐためには、環境への豊か  
な感受性を持ち、環境を守ろうとする気持ち  
を子どものころから育てることが大切です。

このため、北東北3県は連携して「北東北子ども環  
境サミット」を開催しています。

今年は「水と緑の保全と創造」をメインテーマに、秋田市仁  
別の「まんたらめ」で開催します。

北東北  
子ども環境サミット  
2004 インあきた  
開催!



## 1 「子ども環境サミット」はいつから 始まったの？

「北東北子ども環境サミット」は平成11年に第1回が開  
催され、今年で6回目になります。

環境をテーマに開催された第2回北東北知事サミット  
(平成10年)で、「環境教育・自然とのふれあいの推進」  
が合意され、将来を担う子どもたちに、自然と環境を考  
え、体験し、取り組んでもらおうと、子ども環境サミッ  
トが実現しました。

## 2 サミットでは何が期待されているの？

サミットに参加できるのは「こどもエコクラブ」  
の会員や小学生です。総勢200人の子どもたちが多く  
の仲間と共に「自然に触れる」ことを実感し、自然体験な  
どを通して「自然を楽しむ」とともに、指導者から「自然  
を守る」ことの意味を教わります。

水と緑があふれる素晴らしい環境を次の世代に引き  
継いでいくため、「子ども環境サミット」を、自分たちの



森の工作教室

周りの自然環境を考え  
るきっかけにしたいと  
考えています。

こどもエコクラブ、  
仲間といっしょに環境活動を行う、  
小中学生のクラブ  
(本紙平成15年10月号参照)

## 3 参加した子どもたちの感想は？

過去にサミットに参加した子どもたちからは、  
「サミットで学んだことを生活に生かしていきたい」「身  
近なことからはじめて、自然を大切にしていきたい」「参  
加して環境の大切さを知った。環境博士になりたい」  
など、頼もしい感想を聞くことができました。

また、県内のこどもエコクラブの会員登録も増えてお  
り、子ども環境サミットは確実に環境を考えるきっかけと  
なっています。

## 4 私たち大人は何を すればいいの？

サミットの主役は子ども  
たちですが、大人もサポー  
ターなどとして子どもの活  
動を支えます。

環境問題は世代を問わな  
い地球規模の大きな問題です。県は、子どもへの働きかけ  
のほか、「環境あきた県民塾」の開催など、大人に理解や  
行動を促す施策を実施しています。

子どもと大人が、環境について学び、体験したことを  
一緒に実践することで、環境への理解が深まり、それを  
地域に還元する。そうした循環が生まれることで、私  
たちの豊かな自然と誇れる環境が次の世代に引き継が  
れるのです。



達人のおはなし

## 北東北子ども環境サミット2004インあきた

期日 7月30日(金)～8月1日(日)

場所 秋田市太平山自然学習センター「まんたらめ(秋田市仁別)

対象 主に小学4～5年生(こどもエコクラブまたは学校単位での参加) 必ず引率者も参加してください。

お問い合わせ 県環境政策課 TEL 018(860)1602 FAX 018(860)3881 e-mail kankyouseisaku@pref.akita.lg.jp

## 健康のため食生活を改善しましょう

私たちは一生の間に一体どれくらいの食事を取るのでしょ。う。

80歳の方が、1日3食の食事を取ってきたとすると、約9万回にもなります。

食事は私たちの体をつくり、毎日の活動エネルギーを生み出す、かけがえのない営みです。特に秋田県は、脳卒中などの生活習慣病が原因で死亡する方が多く、食生活と関わりが深いとされる生活習慣病を予防するためにも、正しい食習慣を身に付けることは大切です。

また、秋田県は全国平均と比べて緑黄色野菜の摂取量が少なく、カルシウムや鉄分も不足している傾向にあります。

健康な体をつくるためにも、もっとたくさん野菜を食べるような食生活が必要です。

健康のために家庭内の食生活を変えていくことに加えて、飲食店や旅館などの食事にも健康を考えたメニューが求められています。

## 「われら健康づくりチャンピオン」挑戦者募集！

以下の5つのテーマから目標となるもの一つを選び、それに対する実践策を生活習慣に定着させて、健康づくりに努めるものです。

応募資格...「健康にいいことを実行したい」と思っている3人以上のグループ  
健康づくりテーマ... 栄養・食生活、運動、たばこ、肥満、休養、の中から1つを選択

内容...テーマに応じた健康活動を宣言した後、60日以上チャレンジし、成果を報告（今年度は保健所職員のアドバイスを受けながら実践期間をさらに30日以上に延ばしたマスターコースもあります）

目標達成者には認定証と賞品を贈呈

応募期間...6月30日(水)まで

参加者の実践例... テーマ:栄養、目標:減塩、実践例:ラーメンのスープは残す、醤油の代わりに酢を利用する など

## 「食の健康づくり応援店」募集！

「おいしさ」「楽しさ」に加え、「ヘルシーさ」にも配慮した飲食店を「食の健康づくり応援店」として認定します。

応募資格...県内で飲食店を営む方

テーマ... まごころサービス、ヘルシーメニュー、栄養成分表示、おいしい空間、の中から1つ以上を選択し、申請

登録...各テーマに設定された要件を満たすこと  
認定店には認定証などを贈呈



「食の健康づくり応援店」認定証

## 健康づくりへのワンポイントアドバイス 2

毎日薬を飲まなければならない方も多いと思います。薬を飲み忘れたり、飲んだことを忘れて2度飲んだことはありませんか。

薬の飲み忘れや2度飲みを防ぐためには、毎日飲む薬を曜日ごとに決まった容器に入れておくといいですよ。容器を見れば、飲んだかどうかすぐにわかります。



お問い合わせ 県健康対策課  
TEL018(860)1422 FAX018(860)3821 ホームページ <http://www.pref.akita.jp/eisei/>

## 6月は土砂災害防止月間です

土砂災害の多くは、雨が原因で突然発生します。土砂災害から身を守るには、「早めの避難」を心がけることが大切です。

防災情報を正しく理解し、避難路や避難場所を確認しておくなど、「日ごろの備え」を万全にしましょう。



## 日ごろの備え 3カ条

- 1 危険区域を、最寄りの県地域振興局建設部または市町村担当課などで確認しましょう
- 2 雨量が1時間に20ミリ以上または降り始めから100ミリ以上になったら注意しましょう
- 3 最寄りの県地域振興局建設部または市町村担当課の土砂災害に関する窓口を事前に確認しておきましょう

## 「美の国あきたネット」の表示速度が都道府県部門の第1位に!

都道府県のホームページ表示速度ランキングで、秋田県の「美の国あきたネット」が、全国で第1位になりました。(ホームページなどの評価会社であるゴメス株が平成16年3月29日発表)

県は、これまで秋田地域IXの活用やトップページの機能性の向上などに努めてきましたが、こうした取り組みが今回の結果に結びついたものと考えています。

これからも日進月歩の情報化時代に対応した、迅速で分かりやすい情報提供に努めていくことにしています。

IX(インターネット エクステンジ) 多数のプロバイダ(インターネット回線の接続業者)同士が接続して情報交換を行うところ

# 情報のひろば

## お知らせ

### 東北開発セミナーの開催

「東北の未来を拓く - 地方分権および地域づくり」をテーマに、岩崎美紀子筑波大学教授の講演やパネルディスカッションを行います。

日時 6月26日(土)午後1時

会場 みずほ苑(秋田市)

定員 130人

対象 主に地域開発に携わっている関係者向けですが、どなたでも自由に参加できます。

入場無料(事前申込みが必要です)

☎県総合政策課 TEL 018(860)1214

### 「お父さんの育休」を応援します!

男性の育児参加などへの理解を深めてもらうための従業員研修に講師を派遣します。

研修実施後、男性の従業員が20日以上の子育て休業をとった場合、事業主へ20万円、育児休業取得者本人へは5万円の奨励金を支給します。

対象 男性の従業員が育児休業を取得した実績のない企業

☎県労働政策課 TEL 018(860)2302

### 風しんの予防接種を受けましょう

妊娠初期の女性が風しんにかかると、心臓病などを持つ子どもが生まれる恐れがあります。

特に、昭和54年4月2日～昭和62年10月1日生まれの方が予防接種率の低い年齢層です。

お済みでない方は予防接種を受けましょう。

☎県健康対策課 TEL 018(860)1424

または最寄りの保健所

### 高卒求人票の提出はお早めに

来春、高校を卒業する生徒に対する求人票の受け付けが始まります。

採用予定の企業は、人材の確保と県内就職を希望する高校生のため、お早めに求人票をご提出ください。

受付 6月21日(月)から  
提出先 最寄りのハローワーク

☎秋田労働局職業安定課

TEL 018(883)0007

### 「賃金不払残業と過重労働」を防止しましょう

「賃金不払残業」は、労働基準法違反です。秋田労働局は6月を「賃金不払残業と過重労働の撲滅強化月間」とし、労働者や企業からの電話相談を受け付ける「特別日曜相談日」を開設します。

日時 6月20日(日)

午前10時～午後5時

相談電話 018(862)6682

☎秋田労働局監督課 TEL 018(862)6682

### 一定面積以上の土地取引には届け出が必要ですよ

土地取引(売買など)の契約をした場合、国土利用計画法により、2週間以内に買主が知事に届け出なければなりません。

届け出が必要な面積

・市街化区域内 .....2,000㎡以上

・その他の都市計画区域内 ...5,000㎡以上

・都市計画区域以外 .....10,000㎡以上

☎県建設管理課 TEL 018(860)2424

または市町村の国土利用計画法担当課

## 募集

### 秋田スギの柱材をプレゼントします

秋田スギの地産地消を進めるため、住宅を新築される方に、乾燥秋田スギ柱材を1戸あたり90本を上限として、50戸分をプレゼントします。

募集期間 7月1日(木)～20日(火)

☎あきた県産材利用センター

TEL 018(837)8095

県秋田スギ振興課

TEL 018(860)1914



### 「グリーンビジネス就職活動支援研修会」受講生募集

農林業などへの若者の就職を支援する職場体験研修会です。

研修日程 7月26日(月)～29日(木)

会場 県森林学習交流館(河辺町)ほか

内容 林業・木材産業関係企業、キノコ生産業、造園業で行う職場体験

募集人数 15人程度

対象 県内在住及び県出身の若者

募集期間 7月12日(月)まで

☎県秋田スギ振興課

TEL 018(860)1929 FAX 018(860)8828

### ガイドヘルパー養成研修の受講生募集

重度身体障害者などの移動介助などを行うことができるガイドヘルパーの養成研修を開催します。

全身性障害者・知的障害者課程(受講は6月23日～25日)10人

視覚障害者講習受講済の方が対象

重度視覚障害者・全身性障害者・知的障害者課程(受講は6月23日～25日、

7月28日～30日)30人

対象者 ホームヘルパー養成研修1・2級課程修了者または介護福祉士で、現在指定居宅介護事業所に勤務している方

☎秋田県身体障害者福祉協会

TEL 018(864)2780 FAX 018(864)2781

### 「伝統的工芸品月間」 図画・作文コンクール作品募集

伝統的工芸品をテーマにした図画・作文を募集します。

図画

対象 小学5・6年生

作品 四つ切り(53.8cm×37.8cm)

またはB3判(51.2cm×36.3cm)

作品の例 伝統工芸品を作る風景 など

作文

対象 中学生

作品 400字詰原稿用紙4枚以内

作品の例 私の町の伝統工芸品 など

応募締切 7月31日(土)

☎東北経済産業局製造産業課

TEL 022(215)7236

### 北秋田「食ビジネス創造プラン」の募集

北秋田地域で生産される食材を活用した加工食品・調理メニューなどを開発するビジネスプランを募集します。優れたプランには開発費・宣伝費などを助成します。

募集期間 6月18日(金)まで

☎県北秋田地域振興局地域企画課

TEL 0186(62)1251 FAX 0186(63)0496

### 秋田マリーナ「海の日」 海洋レクリエーション体験スクールの参加者募集

ヨットやボート、スポーツフィッシングなど、マリンスポーツを体験してみませんか。

日時 7月18日(日)～19日(月)

会場 秋田マリーナ(秋田市飯島)

募集 7月14日(水)まで

参加は無料です。

☎(株)マリーナ秋田

TEL 018(847)1851 FAX 018(847)1852

テレビ

こちらお茶の間情報局

ABS 毎週日曜日11:00~11:15  
 6月 6日 6月は土砂災害防止月間です  
 13日 森の達人と遊ぼう!  
 20日 親子でジェンダーチェック  
 27日 県立初の中高一貫校~横手清陵学院

秋田花まるっ

AKT 毎週月曜日21:54~22:00  
 6月 7日 登山シーズン到来~駒ヶ岳山開き  
 14日 魅力満載!「男鹿」  
 21日 第13回全国ハープサミット西目大会  
 28日 マンスリー県政情報

あきた東西南北

AAB 毎週土曜日9:30~9:45  
 6月 5日 藤里町自然体験教室オープン  
 12日 じゅんさい~日本一の生産地  
 19日 魅力アップ!県立博物館  
 (アンコール放送)  
 26日 風の松原~松くい虫から守る

ラジオ

県庁だより

ABS 月~金11:45~11:50  
 モーニングスマイル  
 エフエム秋田 毎週土曜日 8:30~8:55



あんな声こんな声



グリーンツーリズムの活動があることを市町村のホームページで知りましたが、これに関する県の施策を教えてください。(「県政モニター通信」より)



「やすらぎ」や「ゆとり」といった心の豊かさが重視されるようになってきており、特に都市に住む人たちの間では、緑豊かな自然や地域に根ざした生活文化を持つ農山村への関心が年々高まっています。

秋田県は、全国に誇れる自然環境や先人から受け継がれてきた農山村文化や豊かな地域資源に恵まれています。農山村の活性化や農林業への理解の醸成を図っていくためには、このような豊かな資源を活用したグリーンツーリズムを普及・定着させることが、極めて重要であると考えています。

このため、県は、都市と農山村の交流を積極的に進めようと、シンポジウムなどによる普及啓発や受け入れ農家のネットワークづくりのほか、秋田の特色を出せるような「山・里・海」をセットにしたグリーンツーリズムモデルコースの設定を行っています。

また、農家民宿や農家レストランなどの交流拠点の施設整備を進めているほか、市町村・農業団体などで構成する「秋田花まるっグリーンツーリズム推進協議会」が行っている情報交換会や人材育成などの取り組みも支援しています。

☎ 農農山村振興課 TEL 018(860)1851

県政への苦情は県民行政相談室へ

県政に対するあなた自身の利害にかかわる苦情を、県民行政相談員が公正中立の立場で調査、処理します。

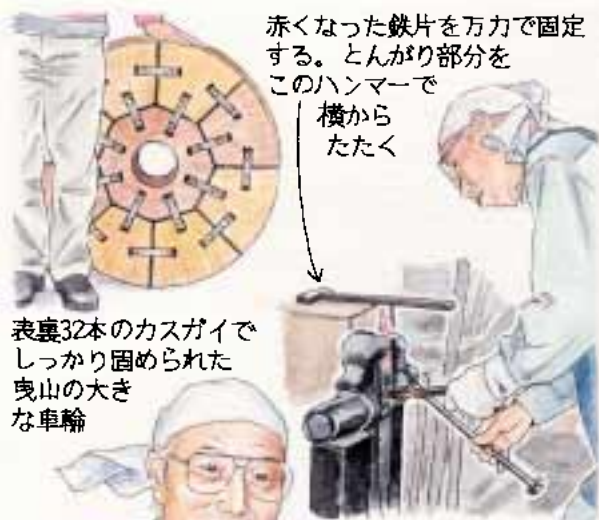
相談日時 火、水、木、金の  
 午前10時~午後4時  
 受付場所 県民行政相談室(県庁1階)  
 電話 フリーダイヤル0120-229079  
 (携帯電話からは018(860)1082,1083をご利用ください)  
 Eメール kujyou@mail2.pref.akita.jp

春夏秋冬  
 こぼれ話

シリーズ63

文 小西 一三 / 絵 小西由紀子

街の鍛冶屋さんが作る  
 「港曳山祭り」のカスガイ



赤くなった鉄片を万力で固定する。とんがり部分をこのハンマーで横からたたく

表裏32本のカスガイでしっかり固められた曳山の大きな車輪

武藤 吉廣さん(68)

土崎衆(ザキシュウ)だもの。これを打った曳山(ヤマ)家の前、通れば「そりゃおもしろ

かつてはこの村や町にも鍛冶屋さんがあり、トンテンカン、トンテンカンと鎚音を響かせ、包丁やクワ、ナタなど地域の生活に必要なさまざまな金物を作っていたものだ。しかし最近街の中で鍛冶屋さんを見つけるのは難しくなっていました。「俺が小さい頃は土崎だけで十数軒の鍛冶屋があったもんだと、今ではうち一軒だけになってしまった」と少々寂しそうに語る武藤吉廣さん(68)は創業明治四十二年、正勝刃物鍛冶の四代目だ。客の注文に応じて何でも作るという街の鍛冶屋さんだが、一番土崎らしいモノといえば、これだ。ねえべが「と見せてくれたのが秋田市土崎「港曳山祭り」の曳山の車輪作りには欠かせないカスガイだった。

毎年七月二十一日の二日間行われる祭りでは、約千台もの曳山が賑やかに町内をくり出す。ギンギンと車輪をききませながら進む曳山の上には、ぎよりのとした目の武者人形とかく曳山を曳く曳子たちの威勢の良さと武者人形に目を奪われる。かなりの重さを支える車輪と心棒の寿命は十数年前後と、今年も数台の曳山が新調されたという。今回、地域の祭りを支える地元の鍛冶屋や大工など職人さんたちの確かな仕事ぶりを見せてもらった。今年の祭りでは車輪に注目して歩き、土崎「正勝」と刻印されたカスガイを探してみたいと思っている。



## めるまが「ヨボセヨ」が創刊されました!

県は、韓国の観光・イベント情報や秋田との交流情報などをお届けする、メールマガジン“めるまが「ヨボセヨ」”を発行しました。(ヨボセヨは韓国語で「もしもし」の意味)

皆さんからの耳より情報も盛りだくさんの“めるまが「ヨボセヨ」”。

韓国との交流に関心のある皆さんや団体の登録をお待ちしています。

毎月第1週に無料で配信しますので、お気軽にご登録ください。

登録方法 県秋田・韓国交流促進チームのホームページ登録フォームからどうぞ。

**お問い合わせ** 県秋田・韓国交流促進チーム TEL 018(860)1283  
ホームページ <http://www.pref.akita.jp/akikorea/>



## 100万人の環境講座 NO.3 地球の温暖化をみんなで防ぎましょう

地球温暖化の原因となる温室効果ガスの排出量が増え続けています。温室効果ガスとは二酸化炭素、メタン、亜酸化窒素、フロンなどのことで、県内の二酸化炭素の排出量も、この10年間で31%も増加しています。もし、このまま排出し続けると、21世紀末には地球の平均気温が最高で5.8度上昇するという予測もあり、「海面が上昇する」「熱帯性伝染病が広がる」など、さまざまな問題を引き起こすと考えられています。

省エネやリサイクルなどを心掛け、地球温暖化にブレーキをかけましょう。

### 「環境あきた県民塾」を開催します

環境問題を身の周りの視点から学びませんか。申込書は県環境政策課、各地域振興局福祉環境部、各市町村役場に備えています。

対象 16歳以上の県内在住者または県内に勤務する方

場所 県内3会場(大館市、秋田市、横手市)

内容 「ごみ問題」「地球温暖化」など10テーマ

お問い合わせ 県環境政策課 TEL 018(860)1601 FAX 018(860)3881  
ホームページ <http://www.pref.akita.jp/kankyoho/>



正解者の中から抽選で、10人の方に図書カード(千円分)をお贈りします。

問題 世界遺産「白神山地」は二つの県にまたがっています。秋田県とどこの県でしょう?(P2参照)

- (1) 青森県
- (2) 岩手県
- (3) 山形県

応募方法 答え、郵便番号、住所、氏名(読みがな)、年齢と本紙の感想などをお書きのうえ、〒010-8570県情報公開課クイズ係 住所は不要)あてお送りください。締め切りは6月25日(消印有効)。ハガキ、ファクス(018-860-1072)、Eメール(sinjidai@mail2.pref.akita.jp)でどうぞ。

4月号の正解は「1)杉」でした。応募278通、うち正解278通の中から抽選で次の方々当選されました。白根直佳さん(大館市)、松岡初男さん(合川町)、高橋久助さん(二ツ井町)、鈴木栄子さん(男鹿市)、村上智喜さん、福田麻希子さん、中林香奈さん(以上、秋田市)、太田ヨシ子さん(鳥海町)、藤谷孝予さん(大曲市)、樋口愛さん(十文字町)

### 編集部から

千畑町のなかよし園の取材で、まず驚かされたのは園児たちが多かったこと。幼稚園児と保育園児を合同保育したいという関係者の強い信念が、子ども同士の交流を増やしました。また、雄大な自然にあこがれて、多くの方が訪れる白神山地。その豊かな自然環境を守るために地道な努力を続ける人々もいます。より良い未来を実現するためには、強い信念と地道な努力が不可欠なのだと思ながら気付かされます。「私も頑張らねば・・・」との思いを強くしたところで。

# 游学

さんぽみち

## 県立農業科学館

大曲市内小友 TEL0187(68)2300

企画展「ベゴニア展」

球根性ベゴニアや木立性ベゴニア、レックスベゴニアなどのさまざまなベゴニアを1000株以上展示します。



期間 6月22日(火)~7月11日(日)

午前9時30分~午後4時30分

入館料 無料

ホームページ <http://www.akita-c.ed.jp/mus-agri/>

## 県立近代美術館

横手市赤坂 TEL0182(33)8855

コレクション展「絵を飾るということ」

併設展「阿蘭陀絵事情」

作品の持ち味を生かすために、いろいろな飾り方を紹介します。また秋田蘭画にかかわる作品も併設して展示します。



佐藤文雄「うつむく女神」

日時 6月30日(水)~9月12日(日)

午前9時30分~午後5時

観覧料 一般800円、学生600円、小・中学生400円

(7月16日までは半額)

ホームページ [http://www.pref.akita.jp/gakusyu/public\\_html/index.html](http://www.pref.akita.jp/gakusyu/public_html/index.html)

## ゴンドラで行く森吉山紀行

森吉山阿仁スキー場 TEL 0186(82)3311

阿仁町商工観光課 TEL 0186(82)2117

花の百名山で知られる森吉山で、阿仁スキー場のゴンドラを利用したイベントを開催します。森吉山の自然を満喫してみませんか。



日時 6月19日(土)~7月19日(祝)

(ゴンドラは通年運行を予定しています。)

運行時間 午前9時~午後4時

ゴンドラ料金(往復) 大人1700円、子供800円

団体割引、阿仁の花しょうぶ園との共通券もあります。

県政だより「あきた新時代」は県内全世帯にお届けしています。ご近所などで配達されない方がおられましたら、県情報公開課までお知らせください。また、ご感想などをお待ちしています。

県政だより「あきた新時代」は県のホームページ「美の国あきたネット」で紹介しています。

アドレスは、<http://www.pref.akita.jp/>

県政だより「あきた新時代」は、点字版、音読テープ版も発行しています。ご希望の方は、県情報公開課までお知らせください。



県人口 1,160,861人 (-4,039)

男 548,679人 (-2,333)

女 612,182人 (-1,706)

世帯数 395,837世帯(-981)

(平成16年4月1日現在の推計値。カッコ内は前月比)



古紙配合率100%再生紙を使用しています